

2026年03月03日作成

第2.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

当院における胃上皮性腫瘍に対する内視鏡治療の全数調査

1. 対象となる患者さん

2010年1月～2024年3月の間に当院で胃上皮性腫瘍に対して内視鏡治療を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・代謝内科 森 仁志

3. 研究の目的と意義

国立がん研究センターがん情報サービスが公表するがん統計予測によると、2023年の胃がん罹患患者数は大腸がん、肺がんに続いて第3位とされています。近年の内視鏡検診の普及や画質向上に伴い、リンパ節転移のない段階で診断されるがんも増加し、内視鏡治療技術の進歩もあり、内視鏡治療が行われる機会が多くなっています。低侵襲な治療として広く普及している中で、胃がん患者の高齢化が進んでいることでの内視鏡治療の適応、ピロリ菌除菌後や未感染の胃がん割合の増加、後出血を含めた治療後の合併症などが問題として取り上げられています。

この研究は、カルテ情報を解析し、胃上皮性腫瘍の特徴および内視鏡治療の有効性、安全性、長期予後を明らかにすることを目的としています。この研究の成果は、今後の胃上皮性腫瘍に対する適切な治療選択に繋がることが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、胃上皮性腫瘍における治療後の合併症や再発の割合を算出します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・性別・既往歴、生活歴、内服歴、血液検査結果、病理組織結果、内視鏡画像、内視鏡結果報告書、CT 画像

**6. 情報の管理責任者**

奈良県立医科大学 学長

**7. 研究期間**

研究機関長の実施許可日～2027年03月31日

**8. 個人情報の取り扱い**

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

**9. お問い合わせ先**

奈良県立医科大学附属病院 消化器・代謝内科 森 仁志

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：hitoshi-mori@naramed-u.ac.jp